

今、政治に望むこと

元総務相、前岩手県知事、野村総合研究所顧問

増田寛也

- *「野田首相は常識的に判断する人」
- *正確か否かわからない「15党」乱立
- *首長と国政リーダーの違い
- *国会改革は大臣の出席慣行見直しから
- *六重苦の克服に向けて
- *大事な「三党協議体制」の維持
- *どここと組んで政策を実行するか
- *理念違いで地方分権論に二つの流れ
- *「出口」としての次回の参院選
- *8月以降の政治スタイルを見据えて



浅野 それでは開会いたします。（拍手）

今日はおなじみの前岩手県知事、元総務相の増田さんにおいでいただきました。改めてご紹介の必要はないと思いますが、現在は野村総合研究所顧問としてあるいはいろんな委員会などでさまざまな提言をされておられます。

増田さんには9月頃お願いしましたが、「今、政治に望むこと」というのは増田さんがつけたタイトルです。しかし今日、解散ということ、今日のことを予感してつけられたのかなと思うぐらいタイミングがいいですね。

ただし、増田さんはもちろん政治評論家ではありませんので、政局の細かいことはお話しにはならないかもしれませんが、政治はいかにあるべきかという大事なことを、当面の動きも踏ま

えてお話しされるはずで。このレジユメも昨日の夕方ぐらいにつくってくださったもので、極めてホットなレジユメになっていますので、とても楽しみです。それでは増田さん、よろしくお願いします。（拍手）

増田 ご紹介いただきました増田でございます。どうぞよろしくお願いたします。

昨年もお招きいただきました。そのときは震災復興の話をいたしました。先週も岩手に行き、二泊してあちこち歩いてまいりました。震災直後は物があちこち散乱している状況でしたが、がれきが完全に片付けられ、ポツンポツンと残っている廃墟のような建物が逆に目立って、あとは一面草ぼうぼうということで、さらに殺伐とした風景が広がっています。